

平成27年度 学校経営計画書及び自己評価計画書

石川県立羽咋工業高等学校

学校長 下 根 浩 明

1 教育目標

- (1) 確かな学力を身に付け、個性や創造性に富む人間を育成する。
- (2) モラルを重んじ、各自が責任感をもって人を思いやる心豊かな人間を育成する。
- (3) 健康や体力の増進に努め、逞しく活力ある人間を育成する。
- (4) ふるさとに誇りをもち、広い視野に立って社会に貢献できる人間を育成する。

2 中・長期的目標

(1) 学校の現状

- ① 本県基幹産業を担う人材育成を目的とする能登地区唯一の工業科単独高校として、もの作りを中心とした専門教育を行い、就職希望者のほとんどは、専門を生かした仕事に就いている。昨今の経済状況の変化に伴い就職戦線は激化しており、今まで以上に社会が必要としている人材の育成が必要となっている。
- ② 資格取得を奨励し、多くの資格に挑戦させ、ジュニアマイスター顕彰の受賞者も増加している。一方、部活動も大変盛んであり、資格取得のための放課後や休業中の補習との両立をめざし、工夫・努力している。
- ③ 部活動を推進し、部加入率約100%、運動部加入率約80%と高い加入率を維持している。また、一日一善運動にも熱心に取り組んでおり、健全な心身の育成に向けて、成果を上げている。
- ④ 地域連携を推進し、生徒の社会貢献に対する意識が上がってきている。

(2) 生徒に関する中・長期的目標

- ① 基礎・基本の徹底と確かな学力の定着を図り、生徒の個性・能力を最大限に引き出す。
- ② 時代を展望し、望ましい勤労観、職業観を育成する。
- ③ 健康や体力の増進に努め、人間性を育み、心身ともに健康で逞しい人づくりをする。
- ④ 産業社会の変化に対応できる社会人としての総合的な能力を高め、問題解決能力・創造力・コミュニケーション能力に富む人づくりをする。

(3) 教職員、学校組織などの望ましいあり方

- ① 教職員の意識改革を図り、一人ひとりが学校経営に参画する意識を持ち、全職員が協力して、学校運営に組織的に取り組む。
- ② 自己評価や外部評価を活用し、公開授業や校内外の研修を通して、指導力の向上や授業改善に努める。
- ③ 産業構造の変化や技術革新に対応できるよう産業界の動向を常に把握するとともに、本校に適した指導内容・教育課程・教育システムを模索し、地域に必要とされる「ものづくり教育」をめざす。
- ④ 工業技術の提供やボランティア活動を通して、地域への貢献を図り、信頼される開かれた学校作りを推し進める。

3 今年度の重点目標

- (1) 生徒全員の進路実現のため、全教職員が授業改善を実践するとともに、資格取得を奨励し、学力向上を図る。
- (2) 心身ともに健康で逞しい人づくりのため、規範意識を高め、生徒会活動や部活動を活性化させる。
- (3) 社会貢献や環境に対する意識を高めるため、工業学習成果の提供や奉仕活動等を積極的に行い、地域社会との連携を深める。

						石川県立羽咋工業高等学校	
重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
1 生徒全員の進路実現のため、全教職員が授業改善を実践するとともに、資格取得を奨励し、学力向上を図る。	① 研究協議会の内容を改善し、言語活動の充実とアクティブラーニングの導入、ICT機器活用により、学校全体で授業改善を行う	教務課 各教科	各教科の研究協議会を改善し、ICT機器活用等による授業改善に取り組んでいるが、全員の複数回の取組にまで至っておらず、さらなる意欲の高揚が望まれる。	【努力指標】 研究授業や互観授業で得られた授業改善の方策を学校全体で実践し、指導力の向上を図り授業の質を高めている。	各教科と学科で授業改善についての取組を A 各学期に3回以上取り組んだ B 各学期に2回取り組んだ C 各学期に1回取り組んだ D 全く取り組むことができなかった	A・B合わせて80%以下 の場合は取組を再検討	教職員対象に 7月・12月にアンケート調査
	② 学力向上を図るために教科の課題やレポートの出題方法と回数を工夫するとともに、授業と資格取得の補習指導を通して家庭での学習習慣を身に付けさせる。	教務課 各教科	定期考査期間以外での家庭学習が少ない状況が続いており、補習により成果は出ているが、補習後に家庭学習する生徒が増えていない。家庭での自発的・継続的な学習にまで繋げていく必要がある。	【満足度指標】 授業時間外の学習と家庭学習に十分取り組むことができている。	課題・レポート・資格取得などや家庭での学習活動について A 十分取り組むことができた B おおむね取り組むことができた C あまり取り組むことができなかった D 全く取り組むことができなかった	A・B合わせて80%以下 の場合は取組を再検討	生徒対象に 7月・12月にアンケート調査
	③ 全教員が愛読書を薦めたり、昼食時の出前図書などの読書運動を全校的にを行い、生徒に読書の習慣を身につけさせる。	図書課	昨年度2学期末での貸し出し図書数は1571冊であった。本校生徒の図書館利用や読書に親しむ姿勢は一昨年度より向上しているが、全体の3/4の生徒が一冊も借りていない点が課題である。	【成果指標】 生徒全員が1人1冊以上を目標に、貸し出し図書数が増加している。	2学期末での貸し出し図書数が A 1200冊以上 B 1000冊～1199冊 C 800冊～999冊 D 800冊未満	C・Dの場合は、取組を再検討	7月・12月に調査
	資格・検定取得の説明機会を増やして受験を奨励するとともに、土曜授業や課外補習を充実させ合格者数を増加させる。	工業科 進路指導課 教務課 学年	資格・検定取得に対する生徒の意識は高まっているが、年ごとに受検者数の増減が見られ、学科の枠を超えて種々の資格・検定に挑戦する取組が必要になっている。	【成果指標】 資格・検定試験合格者数が増加している。	1月末での資格・検定試験延べ合格者数が学校全体で A 800人以上 B 700人～800人未満 C 550人～700人未満 D 550人未満	C・Dの場合は、問題点を分析し具体策を検討	1月末の資格・検定試験合格者数を検証
	⑤ ジュニアマイスターのゴールドおよびゴールド特別表彰、シルバー、校内顕彰ブロンズの取得を目指し、学校全体で多くの資格・検定への挑戦意識を高めて認定者数を増加させる。	工業科 関連教科	昨年度のシルバー・ゴールドの認定者は104人、ゴールド特別表彰者は9人となった。昨年度すでにジュニアマイスターの認定を取得した3年生も多数いるが、さらに上位認定を目指し難易度の高い資格・検定への受験奨励と補習の充実が求められている。	【成果指標】 社会が専門高校生に求める専門的な資格や知識の指標となるジュニアマイスター顕彰認定者数が増加している。	ジュニアマイスターゴールドおよびシルバーの認定者数が学校全体で A 60人以上 B 50人～59人 C 40人～49人 D 39人以下	C・Dの場合は、取組を再検討	7月、1月の申請者数を検証
	⑥ インターンシップや地元企業説明会等により適切な進路選択を促進させるとともに、進路説明会やLHなどで進路に向けた情報提供を行なう。	進路指導課 工業科 学年	地域企業への理解を深め、仕事の意義を理解させるとともに、進路情報を的確に知らせ、意識を高める必要がある。	【満足度指標】 適切な情報提供により進路意識の高揚に繋がった。	各種進路指導行事・LHなどによる説明や進路情報により、意識が A たいへん高まった B ある程度高まった C あまり変わらない D 全く変わらない	A・B合わせて、80%未満の場合は、取組を再検討	生徒対象に 7月、12月にアンケート調査
	⑦ 進路希望の達成のために指導の充実を図る。 基礎学力の定着を図り、試験対策を十分に行う。 外部講師による講演や面接指導、全教員による個別面談・指導を充実させる。	進路指導課 工業科 学年	近年は、求人件数が上向き傾向にあるが、企業側が人物を選んで採用する傾向にある。今年度、就職希望者は昨年度同様で約7.3割を占める。大学進学希望者は、進学後に学業についていける力をつけておく必要がある。	【満足度指標】 適切な学力・面接等の指導により実力がついてきている。	朝学習や学力テスト、補習、面接指導により、実力が A たいへんついた B ある程度ついた C あまりつかかなかった D 全くつかかなかった	A・B合わせて、80%未満の場合は、取組を再検討	3年生を対象に 12月にアンケート調査
				【成果指標】 早い段階での就職内定を勝ち取る。	年内での就職の内定率が A 100% B 95%以上100%未満 C 90%以上95%未満 D 90%未満	C・Dの場合は、取組を再検討	3年生を対象に 12月末に調査

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
2 心身ともに健康で 逞しい人づくりのため、 規範意識を高め、 生徒会活動や部活動を 活性化させる。	① 本校の運動部は、県高校 総体・新人大会で団体・個 人とも上位を目指し、高体 連表彰敢闘賞を獲得する。	生徒会課 運動部顧問	昨年度ベスト8以上の成績をお さめた部活動は、県総体・新人で 延べ10であった。高体連総合成 績では、敢闘賞部門2位を受賞し た。	【成果指標】 高体連の得点基準にしたが い、総合得点60点以上獲得 する。	高体連基準総合得点が A 60点以上 B 55点以上60点未満 C 50点以上55点未満 D 50点未満	C・Dの場合は、取組を再 検討	県総体、県新人大会の成 績結果を検証
	② 文化部で部活動への重複 加入を奨励し、各部の取組 や活動に、生徒が積極的に 取り組み、よい成果を収め る。	生徒会課 文化部顧問	近年校内外への発表・公開の機 会を増やすことにより、年々活発 になってきたが、同じ指標では比 較しにくい。	【満足度指標】 生徒は文化部活動をより活 発にしようと行動しており、 その取組や成果について満足 している。	文化部の活動や成果に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	A・B合わせて80%以下 の場合は再検討	生徒対象に 7月・12月に調査
	③ 生徒会を中心にして行事 への参画意識を高め、自主 的に参加する行事にする。	生徒会課 部顧問 学年	生徒会行事で生徒がより積極的 に参加するよう工夫しており、 昨年度は91%の生徒が「満足し た。」と回答している。	【満足度指標】 生徒の意見を取り入れ、満 足のいく行事になっている。	生徒会行事に満足しているか A たいへん満足している B おおむね満足している C あまり満足していない D まったく満足していない	A・B合わせて80%以下 の場合は再検討	生徒対象に 7月・12月にアンケ ート調査
	④ 倫理観・道徳意識（モラ ル）に関する全校一斉読み 聞かせを行い、規範意識の 向上を目指す。	生徒指導課 学年	学校の全ての教育活動で規範意 識を高める活動・指導がなされて いるが、未だルールを守れなかつ たり、公共心に乏しかったり、自 己中心的な生徒もいる。	【満足度指標】 規範意識が向上し、ルール やマナーを守れるようになり、 モラルが身についている。	本校の教育活動や朝の読み聞かせにより、規範意識が向 上したか A 十分向上した B 少し向上した C あまり向上していない D 全く向上していない	A・B合わせて80%以下 の場合は再検討	生徒対象に 7月・12月にアンケ ート調査
	⑤ 保健だよりや集会、SH 等を利用して、生徒の心身 の健康管理についての意識 の高揚をはかる。	保健指導課 教育相談課 学年	運動部加入率が高いが、体調不 良等による保健室の利用者が毎日 数名いる。	【満足度指標】 自分自身の心と体の健康管 理を日頃から意識して生活で きている。	自分自身の心と体の健康管理について、日頃から意識し て生活しているか A 常に意識している B ある程度意識している C あまり意識していない D まったく意識していない	A・B合わせて74%以下 の場合は取組を検討	生徒対象に 7月・12月にアンケ ート調査
3 社会貢献や環境に 対する意識を高める ため、工業学習成果 の提供や奉仕活動等 を積極的に行い、地 域社会との連携を深 める。	① 社会に貢献する大切さや 必要性を認識するために、 地域ボランティア活動や校 外での一日一善運動を推奨 する。	生徒会課 学年	海岸清掃や地域ボランティア活 動に部単位で参加していることに 加え、毎日の一日一善運動につ いて、全校生徒の80%が実践し ている。	【満足度指標】 社会貢献活動の大切さを理 解し、学年や部活動、生徒個 々で地域ボランティア活動や 一日一善を実践している。	地域ボランティア活動や一日一善運動について A 毎日必ず実践している B できるだけ実践している C あまり実践していない D 全く実践していない	A・B合わせて70%以下 の場合は再検討	生徒対象に 7月・12月にアンケ ート調査
	② We bページの更新回数 を多くし、学校行事や学習、 部活動などでの様々な取 組みを積極的に広く公開す ることで、多様な教育実践 を保護者や入学希望の中 生などに情報発信する。	情報管理課 総務課 工業科	We bページの更新回数は増加 し、学校の活動状況や部活動の情 報発信も増加しているが、まだ情 報発信手段として活用しようとす る意識が高くなっているとはい えず、更なる活用が求められている。	【努力指標】 学校の様々な活動状況をタ イムリーでスピーディに公開 して、本校の魅力を十分に発 信している。	ホームページを更新した回数が A 60回以上 B 50回以上60回未満 C 40回以上50回未満 D 40回未満	C・Dの場合は、取組を再 検討	各担当に 7月・12月に調査
	③ 環境保全のこれまでの取 組を向上させ、ゴミ分別や 環境保全が正しく行われて いるかを評価し、美化意識 の向上を目指す。	総務課 保健指導課 学年	環境保全活動は年々着実に行わ れているが、その取組に個人差が 出てきている。	【成果指標】 各学期1週間程度各教室の 清掃やゴミの分別を中心に1 日20点満点で評価し、18 点以上を獲得する。 【満足度指標】 学校全体で環境保全（ゴミ の分別・節水・節電等）に取 組んでいる。	18点以上の教室が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満 環境保全（ゴミの分別・節水・節電等）に取り組んでい る割合が A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満	C・Dの場合は、取組を再 検討	I S O委員により 7月、10月、1月に各 教室を1週間調査し1日 20点満点で評価
						C・Dの場合は、取組を再 検討	生徒対象に7月・12月 にアンケート調査